

平成十二年二月発行  
東海大学附属望星高等学校同窓会  
発行人 Tel 03(3467)8111  
下倉良次

# 東海大学附属望星高等学校

## 同窓会報

第22号



### 四十年の歴史と私

校長 成田 吏

私が望星高等学校に赴任したのは、昭和四〇年（一九六五年）の春でした。望星高等学校四〇周年の歴史の中で言えば、創立6年目に本校に就任したことになります。その年の在籍生徒数は一二〇七名でした。現在では四〇〇〇名を超える生徒数となっておりますが、一時は五〇〇〇名の在籍もありました。

私が担任を持ったのは昭和四一年度からで、

四一Aクラス及び四一Kクラスでした。  
なかなか大物揃いのクラスで、新米の教員は常に生徒さん達に教えられながら、なんとか担任業務をこなしておりました。叙勲を受けて北村純一さん、新聞記事にもなった主婦3人組の、佐藤かおる、丁野昌子、桑田千恵子さん達、生徒会活動や学校行事を仕切つていた長南友行君等々多くの名物生徒諸君が私を鍛えてくれました。

関東地区的スキー交歓会では、若い教員と言ふことで私が福島の会津磐梯山に引率しましたが、私は全然スキーを履いたこともなく、下倉さん達に教えてもらい、生徒引率を忘れて自分が大いに楽しんだ思い出もあります。しかし、何時の年でしたか、夕方ゲレンデか

ら降りて、もうお仕舞いというときに、私の後ろを滑っていた女子生徒が転倒し、足の複雑骨折で大変責任を感じたこともあります。スクーリングの出席の様子は基本的に今は今も昔も代わりませんが、昔は屋間の授業には必ず放課後の仲間同士の懇親会には必ず出席するという生徒もいました。その生徒は、卒業したかどうか記憶にありませんが、きっと楽しい時間を過ごしたことでしょう。

修学旅行は、高等学校としての団体旅行でしたが、旅館に着くと、旅館の人が吃驚して、「高等学校の先生方の旅行ですか」と聞かれたりしました。従って、北村純一さんが校長で、飛田晋さんが教頭と言うことになり、私は一生徒扱いでました。北村さんも、飛田さんも他界されてしまいました。旅館では、高等学校の生徒が夕食で酒を飲むのですから、あきれかえっていました。しかし、私にとっても、あの時の十和田湖から平泉の旅行は大変思い出に残る旅行でした。

松本雅史君も思い出に残る生徒です。四一年度のスクーリングが始まるとき、必ず出席するお父さんがいました。大変熱心にノートを取られておりました。お父さんに事情をお聞きしましたら、彼は病氣で当分出席できないので、私が代わりにノートを取って、息子になりました。そこで、私は、家庭訪問をする事にしました。彼に会ってみましたら、大変明るく、屈託のない生徒でした。私は、副担任の池淵先生とも相談して、職員会議で、出張スクーリングをお願いすることと致しました。色々経緯はありますが、先生方の協力で卒業までこぎ着けました。彼の所へ行くと、授業が一段落すると、将棋をしようと挑まれました。必ず負けました。でも、彼のにこにこした顔を見ると、心も軽くなって帰ることが出来ました。彼のお父さんは亡くなり、松本君がお父さんの跡を継いで社長として活躍しています。

望星高等学校の最大の危機は、FM東海がなくなり、それとともに望星高等学校の存続そのものがあやしくなった時でした。内木文英先生の大奮闘や、生徒・教職員が一体となつた運動でやっと切り抜け、今日に繋がっております。歴史の波は、多くの思い出を飲み込んでうねり、常にうごめいています。嵐のうねりもあれば、しつとりと静かなうねりの時もあります。

これから望星高等学校は、歴史にどのような思い出を残しながらうねり続けるのでしょうか。楽しみにしましょう。

## 二十一世紀に向けて



同窓会会長

下倉 良 次

昨年の大晦日から今年の元旦にかけて、コンピューターの誤作動（Y2K問題）が懸念され、世界中が大騒ぎしました。旅行を中止したり、会社に泊り込んだ人もいたことでしょう。幸いにして大きなトラブルも無く、2000年を迎えるました。この騒ぎとは別に、大晦日から2000年へのカウントダウンが、これも世界の各地で行われました。今年は早くも二十一世紀へ向けてのカウントダウンが始まっています。オリンピックもあり新世纪へのカウントダウンで世界中が沸く年となるでしょう。二十一世紀は明るく、活気のある時代になつて欲しい、と誰もが期待していることだと思います。

望星高校は昨年四十周年を迎えた。少子化の影響でどこかの学校も生徒募集に苦しんでいますが、現在のところ望星高校は連携校を含め、順調にその機能を発揮しています。昨年の四月、新校長に成田先生が就任されました。先生はかつて望星高校で教鞭をとり、事務長に就任されました。その後東海大学本部の学務部に転職され、御活躍された事は皆さんも御存知のとおりです。望星高校を知り、東海大学を熟知している成田先生が校長先生となられたことは、望星高校にとっても同窓会にとつても大変心強いかぎりです。新体制

一九九九年十一月二十七日（土）に霞ヶ関ビル内の校友会館にて、母校の創立四十周年（単位制コース十周年）記念祝賀会が催されました。

当日は晩秋の週末であったが、やわらかい陽差しにくるまれた、おだやかな一日であつた。

会の始まりは、十一時三十分であったが、会場の校友会館には、早くから多くの人々が訪れており、先生方が慌ただしく、応待にあたっていた。

定刻となり、周辺で待機していた人々が、祝賀会会場の阿蘇の間へと進んだ。会場内は隣りの人の肩がふれあうほどの混みようであり出席者の数の多さが目立った。

金子純郎、千葉彰悟両先生の司会により、祝賀会のセレモニーが開始された。

始めに、松前達郎総長のごあいさつ、そして、成田吏校長のごあいさつと続いた。

創立者松前重義前総長の当時最先端の電波であったFM放送による学校教育を行いたいという念願が達成され、望星高校の通信教育が始まったこと。そして、放送という特殊な学習形態のなかでの、多くの苦難や危機をのりこえて、迎えたこの四十年間の道のりと、平成元年から始まった単位制の十周年のあゆみを、感慨深く語られた。

二十一世紀を同窓会も新体制で迎えたいと思っています。幸いにして役員会には若い人達が大勢参加しています。その活発な行動力と、新しい発想がこれからは必要です。それに執行部も一新し、新体制としなければならないと思います。二十一世紀に向かう同窓会の新しい姿に、会員の皆さん暖かい応援と力強いご協力を願っています。

引き続き、来賓の御祝辞を、文部省初等中等教育局高等学校課係長、斎藤光男氏。全国高等学校通信制教育研究会会长、内藤隆氏、F.M.東京取締役事業開発局長、伊藤勝也氏、

## わが母校の創立四十周年記念祝賀会



の各氏より頂いた。四十年間の永きに亘り、多様な生徒達に愛情を注ぎ続け、また時代の変化に応じた新しい教育方法を求めていく深い関係であると先生方の熱意に敬意を表された。

さらに、伊藤氏は、FM東京と望星高校は兄弟であり、望星高校は兄妹であると持ちあげてくれた。とにかく両者は、車の両輪のごとく互いに支えあっていく深い関係であると熱っぽく語ってくれた。

そして、新しいメディアの開発はラジオ放送をさらに進めて、映像まで取り入れていくことになると示された。

そんな四十年間の母校の歴史と二十一世紀へむけての夢多き翼に、胸の高鳴りを感じた。

つづけて、千葉彰悟先生より祝電が披露された。多くの人々からそして各学校や団体、機関から届けられていた。そのなかに、望星高校第一期卒業生で、同窓会の初代会長であった鶴田幸雄氏も含まれていた。

次に出席者一同による乾杯へと進んだ。乾杯の御発声は、内木又英名誉校長が指名された。

同窓会現会長である下倉良次氏によると、望星高校の産みの親は、松前重義前総長で、育ての親は内木又英名誉校長であると言ふ。内木名誉校長は演壇にあがり、「五分間、私に下さい」と言うやいなや、次々と望星高校に対する深い思いが、堰を切つてとびだしてくる。

そして、万感せまる思いで、力強く「乾杯！」が発声された。セレモニーの緊張がほぐれ、料理が準備された中央のテーブルに、人々が集まり、小皿

( 3 )

に料理をとり、会場の処々に、小游戏が出来、その中で再び乾杯のグラスの響きがひろがったり、歓談がなごやかに続けられた。望星高校を退任された先生方や、他校へ移動した先生のなつかしい姿を多く見かけた、四十周年のこの記念の日に、まずは何があったとしても、いの一番に駆けつけてくれたに、ちがいない。

歓談の合い間に、来賓の諸先生方よりの御祝辞を頂きそろそろ閉会の時間に近づいた時、同窓会会长、下倉良次氏があいさつの指名を受けた。

「望星」それは言うまでもなく、松前重義前総長が唱えられた東海大学の建学の精神にある。「若き日に汝の希望を星につなげ」からとられている、その希望という大切な言葉を一九六三年四月、東海大学附属高等学校(通信教育部が通信制の独立校になった際に、名付けて頂いたと聞かされた。

理想を高く持ち、胸を張って「勝利の人生を歩もう」とうたいあげた言葉である。この望星高校を母校にもった私達は、いつまでも、心のふるさととして、胸に深くござみ、誇りをもって、夢大きく歩んで行きたいと強く思うのであった。

祝賀会は、母校の益々の発展を祈念しての三本締めで、高らかにお開きになった。

# 静岡校だより

静岡校同窓会会長



時の流れ

望星高校を退任された先生方や、他校へ移動した先生のなつかしい姿を多く見かけた、四十周年のこの記念の日に、まずは何があったとしても、いの一番に駆けつけてくれたに、ちがいない。

方への感謝の言葉とともに、私達がこの望星高校を母校とする慶びを、しみじみと語つてくれた。

〔望星〕それは言うまでもなく、松前重義前総長が唱えられた東海大学の建学の精神にある。「若き日に汝の希望を星につなげ」からとられている、その希望という大切な言葉を一九六三年四月、東海大学附属高等学校通信教育部が通信制の独立校になった際に、名付けて頂いたと聞かされた。

理想を高く持ち、胸を張って「勝利の人生を歩もう」とうたいあげた言葉であるという。この望星高校を母校にもつた私達は、いつまでも、心のふるさととして、胸に深くさみで誇りをもって、夢大きく歩んで行きたいと強く思うのであった。

祝賀会は、母校の益々の発展を祈念しての三本締めで、高らかにお開きになった。

(九期生 原澤純一記)

熊本校だより

熊本校同窓會會長



同窓会熊本支部・第2代支部長（熊本校同窓会初代会長）の堤泰夫でございます。

され同志会の会員になられた方もおられると思いますので、まずは簡単に私の自己紹介をさせ

入学し、1993年3月に熊本校第3期生として無事に卒業する事が出来ました。縁あって

白鳥高志の人生を語るにあたって、在籍中の「全日本空手道選手権大会」で優勝した際の感想を聞かせてもらいました。そこで、白鳥高志の人生が大きく変化した瞬間についてお聞きしたいと思います。

責任持って高校を卒業させる事』でした。従つて、3年生時に妻が同学年に編入学して来ま

した。そして卒業を前にして妻が出産、私は父親になりました。在籍中は仕事と家庭そして勉強との両立、それはもう大変なものがありました。しかし、二人三脚で踏ん張った甲斐があり、妻と二人仲良く卒業式を迎える事が出来、一緒に卒業証書を手にした時の喜びは最高のもので今でも忘れる事が出来ません。高校へ行かなかつた者や高校を途中でリタイヤした者などに對し、高校卒業の資格を与えてくれる勉学の場を提供してくださった故松前重義先生や望星高校のスタッフの皆さんに感謝致しております。自己紹介が長くなってしましましたが、熊本支部の活動報告をさせて頂きます。

1995年に熊本校同窓会発足式・祝賀会を開催した後、予算が無く全体的な活動はやつておりますが、相談役の森高さんを交え定期的に若手幹部を招集し、今後の活動を話し合つております。何とか我慢に我慢を重ねて來た結果、予算的に2000年中に第2回目の全体総会・懇親会をやる事が可能になりました。20世紀最後の年、また熊本校10期生が巣立つ節目の年に総会・懇親会をやれる条件が整った事を我々熊本校同窓会役員一同嬉しく思っています。何とかして是非、成功させたいと思っています。

最後になりましたが、今年度より成田史校長先生が就任され、望星高校発展の為に様々な改革を行つておられるをお聞きしています。このような素晴らしい高等学校がもつともっと発展する事は我々卒業生としても喜ばしい事です。

母校の更なる発展を祈願致しております。  
「汝の希望を星につなげ」

## 第三十六回同窓会に参加して



二十八期生  
田中美帆

毎年開かれる高校の同窓会を、私は、心待ちにしています。卒業してからずっと、欠かさず出席しています。同窓会役員の皆様や、関係する方々のお陰で毎年出席できることをありがたく思っています。私は、小学校、中学校と卑劣な「いじめ」に会い、先生にも分かつてもらはず、どんどん自信をなくしてしまい、ついには、自分を見失ってしまう日が続いていました。そんな時、望星高校に入学することが出来、担任の先生や諸先生方の人としての温かさや、やさしさにふれ、又友達も出来、少しずつ自分を取り戻すことが出来るようになりました。望星は、私にとって、心をいやせる場であり、楽しいところであり、自分が原点に戻れるところなのです。

その同窓会が五月三十日、日曜日の午後一時より、母校で開かれました。まず総会が、二階教室で開かれ、式次第通り進み、決算報告、予算案等が、執行部の提案通り承認され拍手のうちに、無事終了しました。

次に、場所を生徒ホールに移して懇親会が行われました。懇親会は、総会の時とは、うつて変わって、たくさんの人達が集まって来て楽しい雰囲気がただよいました。先生との楽しい語らい、なつかしい人、新しい人との出



お知らせ  
会報に新コーナーを設けます。

ゴルフのお誘い  
カラオケのお誘い

おいしいお店の紹介  
もちろん、自分の会社やお店のPRもOK

旅だより、ふるさとだより

趣味の会の会員募集、エトセトラ

同窓会事務局へおたよりどうぞ!!

### 第三十七回同窓会の御案内

年に一度のビックイベント望星高校同窓会の季節がやってきました。

苦楽と共にしたなつかしき友の笑顔に会えるチャンスです。

おおいにもりあがりましょう。

皆様の御来場をお待ちしています。

#### 記

一、日 時 平成十二年六月四日(日)

午後一時より総会

午後二時より懇親会

#### 二、場 所

東海大学付属望星高等学校

総会 二階教室

懇親会 生徒ホール

#### 三、会 費

三千円

今年度卒業生 二千円

御夫婦での参加 五千円



会いがあり、楽しさに花が咲きます。会は進み、いよいよ恒例のビンゴゲームの始まりです。このゲームでは、皆が一喜一憂します。中にはテレビを手に入れた人もいて大盛り上がりました。時間はあつという間に過ぎ、会も終わりに近づき、全員が輪になって肩を組み合い校歌を齊唱しますが、毎年のことながら、胸がキュンとなります。名残り惜しいけれど、来年につながるように心を込めて歌いました。本当に楽しい時間を過ごすことができ、ありがとうございました。又、皆様にお会いできることを楽しみに帰路につきました。



### 望星ゴルフコンペ開催

#### 下倉氏（五期生）が優勝

第十二回望星ゴルフコンペは十二月二日に千葉県の姉ヶ崎カントリー俱楽部で開催しました。

参加者は田中・仙波・片桐（東海大山形高から出向）の三人の先生と、木村（四期生）下倉（五期生）漆谷（六期生）、菊池ミチ子さん（四期生）の七名で、昨年同様こじんまりとした集まりでした。

当日は生憎朝から小雨で、名門コースだけに距離も長く苦戦しましたが、それなりに楽しい一日でした。

成績は新ペリア方式でハンディキャップを決め、ハンディホールをうまく生かした下倉氏がネット七十五・六で優勝し、第二位は仙波先生のネット七十六・六、第三位は木村氏で七十八・〇。ブービー賞は菊池さんが獲得しました。今年はもっと季節の良い時に開催し、大勢の人達に参加していただき賑やかな大会にしたいと思っています。最近は女性ゴルファーが増えています。男性も負けずにご参加下さい。

連絡先

〇四七一四三二一九六四七（下倉）

## 内木コートナー



### 私の先生

名誉校長  
内木 文英

恥ずかしいことだが、お世話になった先生に対して、ほんとうに心から、ありがたい、先生と出会えてよかったです、と思うようになつたのは、自分が教員になって生徒の面倒をみるようになってからだ。

昭和二十一年四月、旧制大学文学部の二年、二十一歳の時、アルバイトの先生になつてゐる。戦争が終わつたばかりで、待遇のよくない教員では食べていけないと考えられていたのだろう。中学の先生になる人が不足していた。英語の免許はあつたが、戦争中の大学生だ。さすがに英語を教える自信はなかつた。国語や歴史、地理などを教えたが、資料を手に入れるために神田の本屋に通つたりした。

二年目から中学二年生のクラスの担任になつた。三年目は新制中学の一年生、新入生のクラスだった。その頃はもう大学を卒業していって、一人前の先生になつたような気持ちだった。女子生徒の一人が登校しないので家庭訪問すると、母間から父親が酒を飲んでいて、「おれの子だ。何をどうしよう」とおれの勝手だ。学校に何ができるのだ」と毒づいた。教

員である自分の無力を嘆いたが、人を教えることはこういうことだな、と気づいた。生徒だった時は自分の気持ちは先生にはわかるましい、と思っていた。先生になってみると自分が生徒のところへ届いていかない。母を亡くし、父が再婚した十代半ば、私は迷いの雲の中で生きていた。その頃、五年間私を担任して下さった谷鼎（たにかなえ）先生が、「クラスに秀才はたくさんいるが、社会的にいいじごとをするのは内木、君がいちばんだと思う。今でもそう思っている」と言われたのだ。私が三十歳になつた頃の話である。交通事故で亡くなられた先生のお葬式で、級友を代表して弔辞を読んだ。

小学校の五年と六年の担任の先生であつた塙禎幹（はなわていかん）先生は、いつも砂場で私たちと相撲をとつて下さるような先生だった。最後は中野区の中学校の校長先生をつとめられたが、その行方を私たちが探しはじめた時には、もう亡くなつておられた。当時の同級生たちと新百合ヶ丘のお宅を弔問したが、ああ、もうすべては手遅れだと感じた。先生にお礼が言いたかったと還暦を超えた級友たちで嘆きあつた。

早稲田に入つてからは童話を書いていた。師匠は作家の坪田譲治（つぼたじょうじ）先生である。先生からは文学の真髓、人間の生き方を教えていただいたと思っている。昭和五十六年七月に九十一歳で亡くなられたが、十八歳の時から五十六歳まで、三十八年間お世話になつたのだ。先生の色紙を何枚か持つてゐるが、その一枚に、

少年は咲く花

青春は歌う鳥  
中年風雪

晩年如何

と、書かれている。

私の晩年をどう言つたらいいだろうか。先生のことを思いながら自分のこれからを考えてしまう。

東海大学高等学校

連合同窓会



七期生  
長南 友行

### 連合同窓会に参加して

第24回東海大学高等学校連合同窓会が甲府高を開催校として昨年8月21・22日行われました。これは、大学傘下の12校の同窓会が一同に会して年一回行われています。我同窓会からも会長以下6名が参加しました。

約80名の全体会では各校役員等の紹介、近況報告があり、卒業生が7000名を越えました。成田先生が本部から校長に就任（望星）2校が合併して4月から校名を翔洋高校に（第一・工業）新校舎が完成・新学期からは男女共学に（高輪台）卒業生が50才になりました（第五）等々が報告された。また各々同

窓会が抱えている諸問題（総会への参加者の減少、入会金や年会費、通信の方法）などの話し合いが行われました。先の会長会議で議題にのぼった少子化傾向への対策については、次回への課題としました。



昼食のあと、大型バス2台に分乗し、河口湖、スバルラインを通り一路富士山五合目へ絶景を期待していたが、ガスがかかり残念でありました。

この日、宿は有名な石和温泉。懇親会では、地元ならではの料理に舌づみを打ちながら

全国から集まつた仲間との再会を喜び、旧交をあたためた。またその夜は、石和温泉大火大会が行われていて、屋上からの花火見学をみなさん満喫していました。そのあとも各部屋では、夜のふけるまで昼の続きを議論白

熱し、又の再会を約していました。  
今年の25周年の記念総会は、第四高を開催校として10月に札幌で行われます。全国のみなさんの仲間入りはいかがですか。

## すすり泣く夜・哀悼 佐藤愛子

担任教諭 鈴木敏幸

佐藤（旧姓瀬川）愛子さんは、六十Aの卒業生。同窓会の役員としても活躍。望星高校に在学中も、卒業後も、常にアイドル的な存在であった。「瀬川ですけど……」という電話が、自慢そうに「佐藤ですけど」となり、やがて玉のような亘（わたる）君も生まれ、順風満帆の人生を歩み始めたばかりであった。

昨年の暮れの何処かの忘年会での挨拶。

「今年は、もう、うんざり……」と。私の役目は、葬儀委員長・弔辞・死・記事のマスコミへの連絡・弔電に生花の手配。まるで葬儀屋になつたような一年であった。もう、こりごり、それでも心の隅に、これだけでは治まるまい。奇妙な不安が陰のようにつきまとつた。果たして、この邪な予感が的中。一月一日のことである。諸人、年賀に酔いしれる中では、必ず凶が吉に、ひつそりと寄り添つてしまふ。私の嫌な予感が、佐藤愛子さんにならうとは……。

愛子さんは、私の出版記念会での受付をやってもらつたこともある。望星の近くの洋服問屋が「お持ち帰り自由」とのこと

で、背広を入れる紙袋まで用意してくれていたのだが、あいにく寸法が合わなかつたこともあつた。そこで愛子の登場。「この背広はただで拾つたものだから、ただで直せ」と無理難題をふつかけたりもした。

私はこの背広を一度だけ着て、新年会に出席したことがある。これとして話すこともないで、着ている背広の由来を得意になつて挨拶代わりにした。今年の新年会に立て直してくれた人が……と挨拶しなければならない羽目になり、この件はいっさい断念。

五日が通夜。寒風にまじり、すすり泣きが聞こえた。母の死を理解できないであろう、亘君のあどけない顔が悲しみを深めた。夜そのものが、すすり泣いているようにも思えた。

●二十六期生 佐藤愛子（旧姓瀬川）

平成十二年一月二日にお亡くなりになりました。

享年三十一歳でした。心からお悔み申し上げます。

学校だより

### ◆ 成田吏校長就任

一九九九年四月望星高校は八代目の校長に成田吏先生を迎えた。九年振りに古巣に帰任された。先生は物理を担当されただけに卒業生には馴染みの方も多いのではないだろう。現在は校長職の傍ら単位制コース（二〇〇〇年度から平日教育コースとコース名を変更）で科学史という講座を担当されている。

さらに、東海大学傘下各高校で必修である現代文明論を東京校はじめ各地方校、技能連携校で精力的に講義されている。

### ◆ 単位制高校に変更・二学期制を導入

単位制コースは通信制コースに先駆け一九九九年四月から二学期制を開始した。

通信制コースは学則の変更により二〇〇〇年度から単位制に変わる。（二〇〇〇年度から通信制コースは放送教育コースとコース名を変更）これによって、本校は二〇〇〇年四月、通信制高校から単位制高校に変わり、学年制から無学年制になる。本校の二学期制とは学期（半年）毎に学習科目の単位を認定するシステムのことである。従来の四月の入学式・三月の卒業式という一年間のスパンを半期毎に行ない、年二回の入学式と卒業式を行うことになる。

### ◆ 創立四十周年

一九九九年十一月二十七日霞ヶ関ビルの東海大学校友会館で望星高校創立四十周年記念祝賀会を開いた。

冒頭松前達郎総長が挨拶し、創立期からの

多難な歴史を語り、価値観が多様化した時代には画一的な教育や年齢別学年構成というシステムは崩壊していく、時間を問わずに自由の言葉を引用され、望星高校がこうした予測を含めて、新しい時代への教育を担当する、そういう役割を持つていて。と話された。

ついで成田吏校長が挨拶され、不登校生徒の問題、中途退学者の問題などが社会問題となつているがこれら諸問題の行き着く先が本校のような教育機関への依存となつて表れている。この対応に大変な苦戦を強いられていて、我々はあらゆる知恵を絞つて挑戦する」と決意のほどを話された。

当日は文部省、全国高等学校通信制教育研究会、エフエム東京など多数の来賓、学園関係者、旧教職員、同窓会役員など二五〇名の出席があり大盛況であった。

この日、創立四十周年を記念した記念誌「星を望んで」を発行した。また、この年単位制コース開設、熊本校開校十周年の節目を迎えた。

◆ 初の海外修学旅行を実施

海外への修学旅行は毎年のように話題になつていて、一九九九年十一月東京校のAクラス・Wクラスは合同で杉本、種田、中川の三人の引率教員を含め三十二名で三泊四日でグアムへの修学旅行を実施した。

初の海外への修学旅行であつただけにいろいろと神経を使つたが生徒諸君の自覚した態度に引率の教員は「取り越し苦労」と安堵の胸を撫で下ろしていた。

## ◆ Wクラスの生徒会・文化祭を開催

一九八三(昭和五十八)年四月、日曜日クラス(A)と違い生徒会、クラブ、行事等に関わらない水曜日クラス(W)を開設した。

ただ、生徒の自主的な活動があればそれを育てるという姿勢であった。何度も生徒会を作りうとする気運はあった。一九八八年に生徒会が発足、一九九九年五月に記念すべき第一回の生徒総会を大学講堂で多くの生徒の出席を得て開催、さらに、十一月に多くのクラスの参加をもって初のWクラス独自の文化祭を実施した。

## ◆ 不登校生徒への対応に力点

一九九九年度の入学生徒の約五十%以上が不登校の経験者であることがわかつていて。単位制、通信制どちらのコースにも見られる。このうち通信制コースの生徒を対象に個別指導という対応をとっているが、この申請を申し出た生徒が通信制コースで十七%もあった。

精神的あるいは身体的な課題を抱えた彼等の学校生活を手助けする方策を新たに「一点打ち出した」。

その一つが「専門医師・カウンセラーによる教育相談」二つ目が「オープンルームの開設」である。従来からの「個別指導」「生徒保護者交流会」を含め不登校生徒に対する支援を強化した。

一朝一夕に解決する課題ではないが不登校生徒により良い方策を今後も研究していくたい。

## ◆ 人事異動

唐澤まさ子先生(家庭科)が三月末日をもって定年退職されます。また、研修に来られて

いた片桐正弘先生(理科)が山形高校に、蝦名功行先生が望洋高校に、立石徹先生(数学)は翔洋高校に帰任されます。

一方、四月に野原博先生、藍田隆先生(ともに数学)の二人が着任されます。四月には以下七名の先生方が研修に出られます。

大畠輝明先生(保健体育)第三高校、森公法先生(数学)高輪台高校、沢田久見子先生(保健体育)望洋高校、日塔端乃先生(国語)相模高校、松本一生先生(理科)第五高校、中川真由美先生(数学)第四中学校、斎藤裕美子先生(英語)海外。

また、研修を終えて四月に五人の先生が帰任されます。

大室正夫先生(英語)、高林茂先生(地歴公民)、大谷光夫先生(英語)、渡辺礼子先生(理科)、内藤真也先生(保健体育)。

新任に五十嵐祐子先生、阿部香保里先生(ともに家庭科)の二名、研修者としてお迎えする先生方は第三高校から伊藤冬樹先生(保健体育)、翔洋高校から松本俊治先生(理科)、相模高校から笠原洋子先生(保健体育科)の三名。

平成十一年七月二十四日

☆誕生おめでとう☆

## 平成10年度 決算報告

東海大学附属望星高等学校同窓会

収入	支 出
前期緑越金 8,928,379	連合会関係費 331,993
新会員入会金 2,470,000	生徒会関係費 100,000
新会員年会費 516,000	通信費 580,200
総会時年会費 14,000	会報費 456,750
総会時寄付金 9,000	事務局費 113,836
局振込年会費 499,000	総会費 609,057
局振込年会費 254,000	印刷費 284,550
銀行振込年会費 5,000	交通費 115,510
その他 年会費 2,000	会議費 69,330
その他 寄付金 1,000	卒業記念品費 839,775
利子(郵便局) 814	支部活動費 342,000
利息(銀行) 1,261	機器購入費 53,985
定期利子 170,086	(小計) 3,896,986
定期利子 28,537	総合名簿作成費 4,725,000
	緑越金 4,277,091
合 計 12,899,077	合 計 12,899,077
次期(平成11年度) 緑越金 4,277,091円	

上記の決算、厳正なる監査の結果、相違無い事を認めます。平成11年 5月23日

監査役 清水 庄司(2期)、監査役 原田 進(26期)

## 平成10年度給会・懇親会収支決算報告

平成10年 7月11日 東海大学校友会館於いて

収 入	支 出
会費 378,000円	飲食費他 987,057円

△609,057円(総会費より負担)

## 平成11年度 予算案

収入	支 出
前期緑越金 4,277,091	連合会関係費 300,000
新会員入会金 2,604,000	生徒会関係費 150,000
新会員年会費 583,000	通信費 600,000
年会費 500,000	会報費 400,000
雑収入(利子等) 150,000	事務局費 200,000
	総会費 180,000
	印刷費 300,000
	交通費 250,000
	会議費 100,000
	卒業記念品費 850,000
	支部活動費 260,000
	機器整備費 200,000
	涉外費 100,000
	(小計) 3,890,000
	総費(緑越金) 4,224,091
合 計 8,114,091	合 計 8,114,091

## 平成11年度役員選出

会 長	下倉 良次(5期)
副 会 長	漆谷 憲康(6期) 原澤 純一(9期) 寺林 勝實(29期)
書 記	小澤 エミ子(20期) 高橋 謙一(33期) 最首 知行(35期)
会 計	長南 友行(7期) 柳 麻紀(30期)
事務局長	金谷 義孝(14期)
事務局次長	河野 義家(35期) 萩尾 容子(30期)
コンピューター 広 報	島山 勝(16期)
監査役	木谷 慎吾(32期)
監査役	清水 庄司(2期) 原田 進(26期)